

♪梅咲いて京都に春が訪れる♪

梅の都の春は、梅の香りとともに駆け足でやってくる。千波湖から吹き上げる風はまだ冷めたく梅の枝をゆすつて吹きぬけていくが、2月の声を聞くと陽差しもやわらかく春めいてきて「梅一輪一輪づつの暖かさ」の名句がピタリと実感として迫ってくる。

希望の春は梅から始まる。観光バスが腹一パイに客を呑みこんで水戸を訪れ梅に親しむ、烈公様も今日のよき世代を地下から眺めてその先見の明を誇っているだろう。

♪センサスで築く明るいおらが村♪

2月1日は、中間農業センサスの実施日にあたる。

農林省が行なう5年に一度の大調査であるこの農業センサスは、激しく移り変っていく現代の農業のすがたを正しくとらえて農業政策上の基礎となる資料を作ることが目的として行われる。この調査によつて得た貴重な統計が現在多くの問題を有する農業について、その現実をはつきりと見極め今後の農政の在り方を検討し、適確な判断のうえにたつてこれらの諸問題解決のための資料として活用しようとする大切な調査である。

♪反別の端数も注意して記入♪

調査票の正確な記入こそ農業センサスの正否に大きく影響するのであり、調査員の頭を悩ます問題である。耕地面積や作付、収穫面積などはややもすると端数を切り捨てて記入されがちで、この端数すなわち畝以下の面積でも積もれば大きな数字になつて統計をゆがめることとなる。今回のセンサスでは畝まで記入するからそれ以下は14捨15入ということになる。反以下が0の記入ばかりの調査票は十分に検討してみる必要があるようだ。

♪センサスの仲間に豚も鶏も入れ♪

家畜については、比較的によくの家畜を飼養している場合には記入洩れが少ないことと思われるが、豚とか鶏など2、3飼つてような農家については、ついそんなものは記入しなくてもいいんだつべー、などと記入されないことになる例が多いようだ。たとえ一頭、一羽の小家畜でもセンサスの一員として調査の対象になるから忘れないで記入してもらいたいものである。

♪さあどうも困つた過去の収穫地♪

今回の農業センサスに「過去一年間の収穫面積」を記入する欄がある。さてこの収穫済の面積であるが年も明けてしまうと去年の春作とか、夏作などとうに収穫して売ってしまったもの、または自家消費をして胃袋に納めてしまったものについては覚えている農家が少ないようである。たくさん作付し販売したものは割合にはつきりしていようが、野菜など1枚の畑にいろいろ混作して自家消費してしまつたものについては面積的な感覚が少ないただろうから調査員としても困難を生じるわけであり、質問の仕方によつて調査に大きな影響を与えることにもなる。

♪雑祭り雑がつぶやく世の変り♪

3月3日はひなまつり、昔懐かしいこの行事も、女の子のある家庭では忘れられないものである。きらびやかな衣裳を着た人形が無表情に段に飾られひし餅、あられ、白酒など捧げられ神妙にかしこまつている。

桃の節句ともいわれるがそれは旧暦の時代のことで、現代では梅の節句とでも言いたいところ、一年に一度闇の世界から晴れて陽の光を浴びながら、あたりの変化に驚きの目を無表情な白い顔に浮べていることだろう。

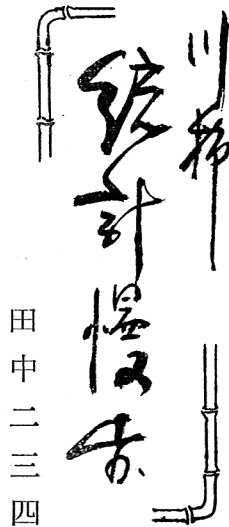
♪決算期妻子へ淋しい夜が続き♪

3月は年度の決算期、一応その年度の仕事はこの月をもつて終りとなり、いろいろと一年の決算の仕事で残業が続き妻子へ淋しい思いをさせる夜が多くなる。

幼ない子供でもいとと帰つて寝顔を眺め朝も寝顔を眺めて出勤するなどボヤクのもこの時期、外は春の行楽のはじまり陽気もよくなり人心とみに浮き浮きとする好期、サラリーマンの悲哀というものを感じさせる時期でもある。

♪決算も事なく済んだ酔心持♪

さて、その決算の仕事も終り、決算書が出来るのは2カ月位遅くなるが、ともかく数字も固まり毎日の目まぐるしさから解放され、久しぶりに家庭人としてのんびりとした気分になりながら妻子とともに傾むける晩酌の味の美味さはまた格別である。



田
中
二
三
四

(8)

統計の交差点

調査員手当の引上げきまる

昨年、統計審議会が調査員手当の単価について、国家公務員の行政職俸給表(1)の7等級2号俸の給与に相当する額(日額約700円)を適当とする旨の答申をしたことは、この欄でお知らせしたが、この答申をうけて行政管理庁を中心に関係各省が協議した結果、40年度予算は単価550円で各省統一要求をすることになった。これは一挙に700円まで引上げることが実際問題として困難だろうとの見通しから、2年計画でこれを実現することとし初年度550円の線を出したものである。その後各省が大蔵省と活発に折衝を行なう一方、各県の統計課長も全国会議で決議、要請を行ない、また本県の町村会、市長会からも働きかけを行なうなどの経緯があつて、昨年暮大蔵省内示が出された。その内容は、単価500円、ただし10%の能率向上を条件とするものであつた。単価についてはともかく、条件の方は一律節減はできないということで、その後も各省ごとに接衝が続けられたが、結局基本的にはこの条件を呑むことになり、大体において各省とも、単価500円、調査日数で10%減(5日分のところは4.5日、2日分は1.8日)となつた。単価の増が比較的大巾だつたため財源的にみて調査日数の方で加減せざるをえなかつたものといえよう。しかし、各調査とも年々調査内容の充実により調査事務量が增大している関係もあり、省によつてはこの事務量の増を大蔵省に認めさせたうえで10%節減をしたため、結果的には前回調査と同じ調査日数を確保したところもあり、一律ではない。

このような経過で、調査員手当は調査事務量の増の問題は一応別にして手当の額だけをみると、10%節減の調査でも28.6%、調査日数がそのままの調査では42.8%の増ということになつた。今後は、調査員手当増額の第2年次として単価700円(又は公務員給与のベースアップにスライドしてこれ以上)を獲得すべく要求が行なわれることにならう。

なお、単県調査の調査員手当も、財源難の折柄非常に難航したが、どうかこの国の線だけは維持することができた。

総理府統計局見学

境町では統計業務の認識の向上と、今後の行政執行の参考とするため職員ならびに調査員55名が2月18日総理

府統計局の計算事務や機械設備などを見学した。

市町村統計主管課長議会開く

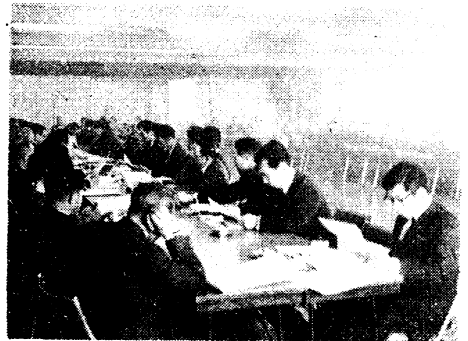
去る2月19日午前10時30分より、水戸市内国保会館四階ホールで開かれました。

会議は開会のことばにつづいて、企画開発部長の代理で牧野次長のねぎらいと今後の統計事業のご協力をおねがいがいして挨拶を終り、竹内県統計課長から年度末も近づき39年度の事業の遂行と、新しい40年度事業の概要を述べ市町村の特段の協力を要望した。

各種統計事業の39年度の経過・結果について、また40年度事業の詳細についてそれぞれの各主管係長から説明があり、それにともなる諸問題について出席者からの質疑応答ののち午後4時終了した。

主な議題は次のとおり

- 1 総括説明
- 2 昭和39年度統計調査事業の遂行について
- 3 昭和40年度統計調査関係事業について
- 4 質疑応答



(会議風景)

昭和40年度教育統計ブロック会議

去る2月8日～10日の3日間文部省主催による上記が関東甲信静ブロックの各県の統計関係者を集め東京都で開かれました。この会議は昭和40年に行なわれる、教育学校関係の諸統計の指示説明が主なもので、本県からも県統計課ならびに教育委員会から係員が出席いたしました。主な議題は

- 1 学校基本調査、学校保健統計調査、学校教員調査の調査事項、予算等についての説明指示。

第16回全国統計大会開催要項

今年横浜市で開かれることになっている第16回全国統計大会の開催要項がきまりましたが、参加人員等詳細については追って各市町村あて通知をいたします。そのあらましは次のとおりです。

- 1 主催 全統連・神奈川県・横浜市
- 2 後援 東京都他関東甲信静各8県
- 3 協賛 総理府統計局・行管庁・経企庁・文部・厚生・農林・通産・運輸・労働・建設・自治各省その他国鉄経団連等各種団体
- 4 期日 昭和40年7月20・21日（火・水）
- 5 場所 横浜市西区紅葉ヶ丘9 神奈川県立音楽堂
- 6 参加者 各省庁・全国都道府県市町村統計関係者ならびに全統連関係者
- 7 行事 第13回統計図表全国コンクール入賞作品展
示（7月20・21日）
大会
大会当日の行事次第は前大会と同様
（7月21日）
- 8 事務局 大会事務局を神奈川県企画調査部統計調査課に設置した。

統計教育振興座談会

本県統計教育の進展をねがって去る2月22日水戸市内県学校長会館で教育庁・教育研究会・県統計課ならびに主催者側の統計教育研究部から、それぞれ関係者が参集して開かれました。この会は本県の統計教育の現状と将来、また統計教育のありかたなどについて総合的に意見の交換をおこない、今後の統計教育進展について大きな収獲を得て有意義に終了した。

労働力調査3月特別調査指示説明会

総理府統計局主催による関東甲信静ブロックの上記が去る2月16、17日の両日長野県諏訪市で開かれました。この調査は毎月の労働力調査の特別調査として、国民の「平常の就業状態」に関してその形態、意識、所得などを調べ、毎月の労働力調査結果を補なうもので特に不完全就業などの実態を明らかにし、現下の雇用問題に対しての諸施策の基礎資料を得ようとするものです。

本県からも係員が出席受講されましたが、主なる議題は

- 1 昭和40年3月労働力特別調査について。
- 2 労働力調査について

中間農業センサス集計プロツク会議

1965年中間農業センサスは、本年2月1日現在で調査し取りまとめの段階ですが、これが集計事務等の

方式の統一をはかるため去る3月1日から2日間静岡県で開かれました。本県からも課長以下係員が出席参加いたしました。

日立市統計調査員大会

第8回を迎えた日立市の上記大会が、去る3月8日午前10時半から市記念図書館で開かれました。

本席で特に統計の功労者として県統計協会総裁から3名が表彰をうけました。

労働力調査3月特別調査県内説明会

上記の説明会が下記県内4カ所で3月4、5の両日開かれました。説明は県職員により行なわれ主として去る2月長野県で行なわれた総理府の指示説明に準じて行なわれました。

記

日立市・下館市・潮来町・取手町

都市統計事務協議会

県内の16市でつくり上げられている上記協議会の本年度掉尾の協議会を去る2月26日土浦市で各市から係員が出席開かれました。議題は昭和40年度における国調・農業センサス・昼間人口調査その他の統計事務についての打合せが主なもので、県側からも職員3名が出席した。

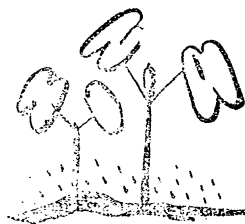
茨城県統計書・県勢要図近く刊行

昭和38年版県統計書、39年版県勢要図が5月刊行の運びとなりました。県統計書は本県の各種統計を網らしてあり、県勢要図は新しい統計資料を各分野毎に抜粋本県地図と併せて携帯に便利なよう作成してあります。統計協会から希望者に頒布いたしますからお申し込み下さい。

昭和38年版茨城県統計書 B5 320ページ ¥1,300円

昭和39年版県勢要図 54cm×77cm ¥ 80円

（いずれも送料実費）



☆近着統計資料案内☆

<不定期刊行物>

資料名	調査年 刊行年	発行者	資料名	調査年 刊行年	発行者
産 業					
工業統計速報(抜萃)	38 年	通産大臣官房統計調査部	統計資料一覽	1 月	岐阜県
地域経済の分析(2部)		〃	統計青森	2 月	青森県
〃 その1		〃	みやぎ統計	1 月	宮城県
〃 その2		〃	統計秋田	〃	秋田県
通産統計(月刊)	1号・2月	〃	統計春	〃	福島県
生産出荷在庫統計速報	1 月号	〃	統計ぐん	〃	群馬県
紙パルプ統計速報	〃	〃	統計千	〃	千葉県
主要経済指標	〃	〃	千葉県毎月人口調査結果	〃	〃
農林水産統計月報	〃	農林省農林経済局統計調査部	千葉県毎月勤労統計結果	〃	〃
経 済			統計東京	〃	東京都
家計調査収支項目分類表	40 年	総理府統計局	商工統計月報	〃	〃
家計調査年報	38 年	〃	神奈川の統計	〃	神奈川県
食糧管理月報	1号・2月	食糧庁	神奈川県人口と世帯	〃	〃
経済統計月報	1 月	日本銀行統計局	統計横浜	〃	横浜市
労働・社会・教育			静岡県の統計	〃	静岡県
賃金・労働時間及び雇用の動き	39 年	労働大臣官房労働統計調査部	あいちの統計	〃	愛知県
逐次刊行物目録	36 年版	国立国会図書館	統計和歌山	〃	和歌山県
第17回簡速静止人口表	38 年度	厚生省人口問題研究所	統計鳥取	〃	鳥取県
わが国の年次別安定人口動態率, 年令構造		〃	統計の統計	〃	広島県
労働力人口の地域人口学的分析		〃	えひめの統計	1・2月	愛媛県
人口問題研究所年報	39 年度	〃	統計佐賀	1 月	佐賀県
人口問題研究(91号)		〃	統計月報	〃	熊本県
〃 (92号)		〃	統計鹿児島	〃	鹿児島県
労働力調査報告	39 年	総理府統計局	茨城県		
労働統計調査月報	1号・2月	労働大臣官房労働統計調査部	衛生統計要覽	38 年	衛生部
労働経済指標	1 月号	〃	販売状況と市場	39 年	日本専売公社水戸地方局
教育統計	92 号	文部省調査局統計課	市町村毎にみた農業生産性		茨城農林統計協会
世界の動き	1・2月	外務省情報文化局	中小企業の賃金事情	39 年度	県労政課
国民健康保険事業月報	〃	厚生省保険局	茨城県都市統計書	39 年	県都市統計事務協議会
国土情報	〃	国土計画協会	事業統計	38 年度	日本専売公社水戸地方局
各都道府県			広報資料	1・2月	県秘書公聴課
本県の工業	38 年	徳島県	県民とともに	2 月	〃
生産動態統計年報	〃	愛知県	治安いはらき	1 月	県防犯協会
かながわ県勢要覽	〃	神奈川県	だ い	2 月	大子町
府民所得の概要	〃	大阪府	日 立	2 月	日立評論社
群馬県勢要覽	〃	群馬県	農 業 茨 城	2・3月	県農業技術研究会
消費構造分析	〃	愛媛県			
埼玉県の地位	〃	埼玉県			
学校基本調査結果報告書	39 年度	新潟県			



人間雑話 (28)

茨城大学教授 塚本勝義

乱用されている言葉のひとつに「馬鹿」がある。足りない亭主に限って女房を「馬鹿」呼ばりする。垣根のこつちで眺めていると、馬鹿なのは確かに亭主なんだが。子供が勉強しないと「お前は馬鹿だ」という。勉強の好き嫌いと、馬鹿利口は別の標準で判定しなければならぬはず。然るに「嫌い」即「馬鹿」と速断するんだから、どうしても言ってる親の方が利口でない。土台、子供は勉強嫌いだ。それが十人並みだ。孔子のような傑人でさえも自発的に勉強を始めたのは十五の時のようだ。水戸黄門などは三年遅れの十八のときだ。子供の頃の勉強嫌いが馬鹿なら孔子も水戸黄門も大馬鹿三太郎だ。

言うこときかぬ相手を馬鹿だときめる。金を貸してくれない相手も馬鹿だと罵る。おごつてくれぬ相手も馬鹿だとやつつける。まじめに働く者を馬鹿だと笑う。パチンコをやらぬ男を馬鹿だとくさす。

とにかく馬鹿という言葉は乱用されてる。でたために使われているのだから、馬鹿だと言われたつて、いささかもたまげる必要はない。あわてて本物の馬鹿になりさがる必要はない。

○ ○ ○ ○

いま、漱石作「坊つちやん」が放送されている。まことに痛快な映画だ。いわゆる小利口な赤シャツと、いわゆる馬鹿者の坊つちやんと山嵐とがはげしい戦いを続けている。坊つちやんと山嵐とが痛快なのは一本調子で、まじめな点だ。そして馬力のある点だ。二人の生き方は真一文字だ。「王将物語」の坂田もいい。これもまた一本調子の突進的生き方だ。この三人の生き方には「からくり」がない。「駆け引き」がない。良いことを損得ぬきでやるだけだ。近頃の偉い人は、口ぐせのように筋を通せとおつしやる。もつともである。坊つちやんも山嵐も坂田も実によく筋が通っている。筋の通りのいい人間がいいなら、この三人男は、正に男の中の男だ。

近頃の人間は筋を通せと言いながら筋が通っていない。筋ばつていると思えば、こんがらがっていて、手もつけられない。筋道もたどれぬ筋なんて、ないとおんなじだ。たしかに人間は複雑になった。それはいい、ガンとした心棒のある複雑さなら、偉大な人物と評し得る。しかし、川魚の小骨のような複雑さでは、いたずらにくどいだけで、小むずかしいだけで、間違つても偉大とは評し得ない。近頃めつきり川魚的人物がふえてきた。そ

して太い骨を持つ、筋の通つた痛快な人間が少なくなった。だから坊つちやんや山嵐や坂田に人気があるのだろう。

○ ○ ○ ○

日本人にはまだまだ形式的な考え方がこびりついている。金があれば幸福だと考える。金があるために不幸になつてる事実を考えない。長生きすれば幸福だと考える。長生きしているために不幸な人を思い出そうとしない。破婚しないから幸福だと思う。離婚する勇気のないために一生を棒にふる人のある事実を見ようとしな

だから、亭主の稼ぎで十分やつて行けるのに、子供を野放しにして働きに出る女房が日に日に増加する。貯めればいいと言う形式的思考の悲劇である。このために子供が不良化すれば、社会が悪い、政治が貧困だとくるのだから手をつけられぬ。どうしたら親子揃つて幸福になれるかを考えようとしな。うまいことをやつてるつもりで悲劇の穴を深く掘つているようなものだ。

○ ○ ○ ○

愛情にも波がある。人によつて波長がちがう。一日おきに高ぶる人もある。三日おきもある。一月おきもあれば一年おきもある愛の低調時は、どこまでも低調時であつて、愛の消滅ではない。ところが性急者は、ややもすれば「低調」を「消滅」と錯覚して、悲観したりあわてたりし易い。愛情だつて永い目で見る必要がある。波があるんだから高低は必然だ。低調にたまげていたんでは愛に生きることはできない。

まともに愛に生きようとなら低調時を低調時と見究めてじつと堪えることが大切だ。必ず高調時がめぐつてくるにきまつてる。

○ ○ ○ ○

日本人は愛と理性を対立させたり、愛に理性を混入させて考える。そして「理性的愛」なんていう、うつろな観念を作り出す。ゲエテなどは、こんな幼稚な思考はしない。ゲエテは理性を重視する。それでいて、理性の奥に愛がなければならぬという。つまり彼は愛を生かすための理性だと考えている。愛を半殺しにする理性や、愛と対立する理性は考えていない。愛する方法が理性だという考え方だ。理性をはたらかせるために冷い人間となるような心配がない。人間を人間として考えた男だ。

(おわり)